

2015年(平成27年)8月8日[土曜日]

- [文字サイズ 小](#)
- [文字サイズ 中](#)
- [文字サイズ 大](#)



NHK長野県のニュース 長野放送局

※NHKサイトを離れます



諏訪湖底で「ヒシ」の影響調査



湖の環境問題を研究している専門家が8日諏訪湖を訪れ、夏場、大量に繁殖する水草の「ヒシ」などが、湖にどのような影響を及ぼしているのかを調査しました。

諏訪湖で、夏場、大量に繁殖する水草の「ヒシ」は水を滞留させて酸素の濃度を下げるため、湖の生き物の生態系に影響を与えることが指摘されています。

8日は、県や漁協などで作る「諏訪湖環境改善行動会議」のアドバイザーを務め

る、東京大学大学院の山室真澄教授が、ヒシなどが湖に及ぼす影響について調査に訪れ、汚れがひどいところなど4か所に潜って湖の底のようすなどを調べました。

このうち、湖岸に近く深さが1メートル50センチから2メートルほどの浅い場所では、ヒシが根を張り巡らせていて水の流れがほとんどないことから、水質を改善することが難しいことが分かりました。

また、湖の底の砂は腐ったヒシなどと混ざり合って粘土状になっていて酸素が少なくなっていることから、貝や魚が住むには厳しい環境であることも分かりました。

調査を行った山室教授は「湖の中だけに原因を求めるのではなく、周辺の土地利用や河川改修など、流域全体で諏訪湖がどう変わってきたかを踏まえ、対策を考えることが必要だ」と話していました。

08月08日 16時23分

Copyright NHK(Japan Broadcasting Corporation) All rights reserved. 許可なく転載することを禁じます。

このページは受信料で制作しています。